



『司書の雑記帳』

学校図書館司書 大地 留美子

「学校通信に何か文章を書いてもらえませんか？」と、筒井校長先生から声をかけていただいだものの、何を書こうか…と、頭の中でつらつらと考えながら日々を過ごしていました。司書だから正攻法でおススメの本を紹介するか、それとも思い切って（知っている人は知っていると思いますが）プライベートでの推し活の話をする、もしくは私の中学生時代を書いてみるか…等々、考え始めたらなかなか内容を絞り込めず、ずるずると後回しになってしまいそうなので、とりあえず思いつくままに書き連ねてみました。

「司書という仕事をしているのだから、本は当然好きでしょう？」と、聞かれることがあります。この質問への回答は実は難しくて、いつも曖昧に「ええ、まあ。」と答えるしかありません。厳密にいうと、興味のある分野の本や好きな作家の本はものすごく好き！で、それ以外の本に関しては好きな本も、興味がない本も当然あるわけです。きっと皆さんもそうですよね？自分が興味があるもの、楽しいと思うことは時間を忘れるくらい熱中するだろうし、苦手なものや、やりたくないことはついつい後回しになってしまいますよね。この文章を書き始めた時の私がまさにその心境でした（校長先生ごめんなさい）。話を元に戻しますが、私は基本的に本を読むことや、文章を読むことは好きだと言えます。そして何度も何度も繰り返し読んだ本が何冊かあります。例えば、小学生の頃は安房直子さんの『ハンカチの上の花畠』、中高生時代は氷室冴子さんの『クララ白書』や『なんて素敵にジャパネスク』、成長してからは沢木耕太郎さんの『深夜特急』などがそうです。

『ハンカチの上の花畠』は小人がハンカチの上で菊の花を咲かせて、その菊の花で“菊酒”を作るというお話で、小学生の私はその“菊酒”がおいしそうだなあと、小学生ながらにうつとりと菊酒に思いを馳せていたものです。『なんて素敵にジャパネスク』は今でいうところのライトノベルのような本で、平安時代が舞台のいわゆるラブコメです。この本を読んだことで、“裳着”・“御簾”といった古典で習うような言葉が自然に身に付いたことはラッキーでした。そして『深夜特急』は著者の沢木耕太郎さんが今から50年ほど前に香港からヨーロッパを旅した経験を綴った実話です。と言っても普通の旅行ではなく、いつ墜落するか…とおびえながら飛行機に乗ったり、怪しげな人達がたむろするゲストハウスに泊まったり、というような超貧乏旅行の出来事を書いたものです。この紹介文でもお分かりだと思いますが、感動で涙したとか、考えさせられたとか、教訓になったという言葉とは、ほど遠い本ばかりです。ですが、先に少し書きましたが、『なんて素敵にジャパネスク』では古典に出てくる言葉や知識が自然と頭に入り、『ハンカチの上の花畠』は著者の安房直子さんが大好きになり、安房さんの本をきっかけに、自然と読む本が増え「大人になったら本に関係する仕事がしたい」と思うようになりました。また、『深夜特急』を読んで以降、海外へ行く際は、添乗員や現地係員がつくツアーではなく、自分で手配し、つたない英語力とボディランゲージでなんとか乗り切る旅へと変化し、旅行の楽しさが倍増したと思います。

今、自分が書いた文章を読み返してみると、やはり本について語っていますね。ついでなので、本に関するもう一つ。小川洋子さんの『博士の愛した数式』という本があります。もちろん内容も素晴らしいのですが、私はこの本に関して言うと、内容よりも主人公の女性が卵焼きを作る場面で「卵に調味料を入れて混ぜて、少しあいてから焼いた方が、味がなじんで美味しい」という言葉がやけに頭に残っていて、それ以降卵焼きをつくる時はそうしています。こんな風に少し影響を受けた本になると、数えきれないほどです。これから西谷中学校の生徒の皆さんも無数の本と出会い、少なからず影響を受けることになると思います。皆さんのがたくさん素敵なお本と出会い、成長することを願いつつ、筆をおきたいと思います。思いつくままの、まとまりのない文章になってしまいました。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

■西谷中学校活性化プログラム（その1）

西谷中の放送は、生徒会執行部の5名の生徒が分担をして、献立の紹介や音楽をかけています。4時間目の授業が終わってすぐに放送室に駆け込み、放送を行い給食も食べなければなりません。あっという間に時間が過ぎてしまいます。そこで、私（校長 筒井）も何か手伝いができるかと考えていました。また、全校生徒を楽しませると共に驚かせてみたいと考えて、生徒会執行部のAさんとBさん、三宅先生に相談しながら計画を立て秘密裏に準備を進めてきました。



元気よく原稿を読みます



みんなで準備した意見箱

保健室前に意見箱を設置

計画を立てるうちに、だんだん構想が膨らんできました。そこで、数名の先生方に相談すると、みんな快く協力しますよと、返事をしてくれました。

【協力していただいた内容】

- ・執行部のAさんBさんは、私と三宅先生の出演を快く受け入れてくれました。また、当日の放送直前までシナリオの読み込みに力を注いでくれました。
- ・三宅先生は、急な依頼にも関わらず快く放送に出演してくれました。
- ・榎木教頭先生は、放送担当の生徒のために放送室まで給食を運んでくれました。
- ・丸山先生は、放送が延びた時のために特別にチャイムを停止してくれました。
- ・東根先生は、三宅先生が放送に出演できるように、給食指導を交代してくれました。
- ・図師先生と関先生、丸山先生は、教室の様子を放送室に動画配信してくれました。

放送の内容は、ふれ合い運動会に向けての各学年・吹奏楽部の意気込み、意見箱の設置（「西谷中を誰もが楽しく通える学校にするため」の意見を集めます。）についてのお知らせ、三宅先生と私たちのリクエスト曲の紹介でした。放送の途中で、教室のみんなに「みなさん運動会の練習や勉強で疲れていませんか？ 元気でしたら大きな拍手をお願いします」と呼びかけると、教室で拍手をしてくれる生徒の様子がモニターに映されました。その映像が映し出されると、放送室の4名で「やった！！」と喜びの声をあげました。

わずか20分の放送でしたが、生徒と共にたくさんの先生方も協力して放送が実現できたこと、教室の皆が一緒に盛り上がってくれたことをとても嬉しく思います。改めて、西谷中生が持っている可能性の大きさ、先生方の熱意を感じる機会になりました。みんな有難う！！

次の放送とサプライズ企画を楽しみにしていてください。そして、西谷中生と先生方で一致団結して、「誰もが楽しく通える学校」を創っていきましょう！！

■ふれ合い運動会に向けて3（園児との合同練習）

ふれ合い運動会の練習も日ごとに進んでいます。今回は園児との合同練習の様子を紹介します。
(写真は5月29日撮影分です)



園児と可愛く踊ります



1・2年生も可愛く踊ります



園児と心を一つに頑張ります